

神戸学院大学有瀬図書館
展示会通信第29号
2013年11月22日発行

Meridian



第25回有瀬図書館ギャラリー展
-神戸市埋蔵文化財センター出張展示-

2013. 10. 26(土) ~ 11. 30(土)

開催場所: 神戸学院大学 有瀬図書館

本館2階

エントランス展示コーナー

本館2階

視聴覚前展示コーナー

戦いと生活



博物館実習 I



三種の神器

今回の展示は本学の博物館学芸員課程必修科目・博物館実習 I を履修する学生たちの企画・制作によるものです。A班・B班ふたつのグループに分かれ、図書館展示スペースを利用した企画の立案から展示まですべて学生主体で行いました。人文学部前畑政善教授のご指導のもと、『神戸市埋蔵文化財センター』の全面的なご協力を得て完成まで至りました。

今回のテーマはA班が『戦いと生活』・B班は『三種の神器』です。学生たちが観覧者の視点で見やすさを考えながら準備していた様子は大変印象に残りました。試行錯誤しながら貼り付けた弥生時代と縄文時代のパネルは力作です！また、鏡や装飾品などをわかりやすく現代のものと比較しており、時代の変化を感じられる展示になっています。

皆さんも、展示を通して昔の人々の営みに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

*開催期間中、日曜・祝日は休館です。

*開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HP、掲示にてご確認のうえご来館ください。

戦いと生活

縄文時代と弥生時代の人びとの生活や戦いの形態は、全く異なっているといっても過言ではありません。

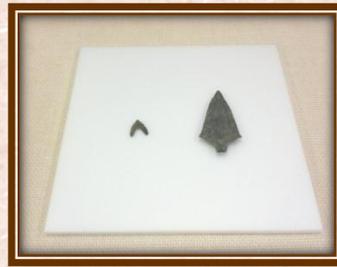
その大きな違いは、人々の戦う対象の変化とそれに伴う武器の移り変わり、また土器の形態の変化と弥生時代から本格的になった稲作による人々の生活の変化です。

本展示では、「戦い」と「生活」の2つの側面に注目し、縄文時代と弥生時代を比較しています。ここで展示している縄文時代と弥生時代の生活様式を、自分たちで実写化したパネルは特に力を入れたのでぜひご覧ください。それでは、2つの時代の「戦い」と「生活」は具体的にどのようなものだったのか紹介していきましょう。

展示物① 縄文時代の戦い

縄文時代は、シカやイノシシを主な獲物として狩猟が盛んに行われていた時代です。狩猟に用いられた道具には、石鏃（せきぞく）と尖頭器があります。石鏃とは矢の先につける矢じりのことです。狩猟に用いる際には、毒を塗って使用したとも考えられています。縄文時代の石鏃は全長が3cm未満と弥生時代に比べて小さいのが特徴です。

尖頭器は木の柄の先につけ槍として、獲物を仕留める際などに用いたと考えられています。



せきぞく

* 石鏃(矢じり) *



* 尖頭器 *

縄文時代・弥生時代の再現

縄文時代



縄文人と漁業



縄文人の生活

弥生時代



弥生時代の巫女



籾取りの様子



展示物② 縄文時代の生活

縄文時代には、日本最古の焼き物ともいわれる縄文土器が作られていました。縄文土器の特徴である縄目の紋様は、土をしめて水漏れをしないようにした跡であると考えられています。縄文土器は主に煮炊き用の器として使用され、当時の人々の調理の幅を大きく広げたものと考えられます。

また、石斧は木の柄に取り付ける向きによって、使用する用途が木の伐採と加工に分けられています。縄文時代には比較的に小型なものがよくみられます。



* 縄文土器 *



* 斧 *



* 石鏃 *



* 磨製石剣 *

展示物③ 弥生時代の戦い

弥生時代に入ると戦う対象が狩猟する動物だけでなく、人間も含むように変化していきました。これにより、武器の殺傷能力は縄文時代のものよりも格段に高くなりました。縄文時代に見られた石鏃と弥生時代の石鏃の大きさを比較してみても、弥生時代の石鏃は3cm以上の大型のものがたくさん見られます。

また、弥生時代になると石剣が使用されるようになりました。石剣は丁寧に研がれており、至近距離での戦闘で用いられたと考えられています。



* 弥生土器 *



* 石庖丁(穂摘具) *



* 斧 *

展示物④ 弥生時代の生活

弥生時代には、稲作によって人々の生活は大きく様変わりしました。そして、稲作ではその穂を摘み取るための道具である石庖丁が登場しました。

また、弥生時代から作られるようになった弥生土器は、その様相も縄文時代のものとは異なり、より機能性を重視したものになっていきました。弥生土器は煮炊きだけでなく、保存・盛り付けなどにも使用されることが多かったと考えられています。

準備中の様子

慎重に、慎重に...



三種の神器

みなさんは、「三種の神器」を知っていますか？

現代社会でならった冷蔵庫・洗濯機・白黒テレビではありませんよ。

三種の神器とは、天孫降臨（てんそんこうりん）神話でアマテラスからホノニギに与えられたとされる三種類の宝物のことです。古事記では「八尺勾玉（やさかにのまがたま）」「八咫鏡（やたのかがみ）」「草薙剣（くさなぎのつるぎ）」が三種の神器とされています。

さて、今回の展示では、古事記に載っている三種の神器にまつわる神話と、玉・鏡・剣の現代の姿を紹介してみたいと思います。



* 古墳時代の玉 *



* 古墳時代の滑石製白玉 *



* 江戸時代の柄鏡 *

〔天岩屋戸伝説〕

（あめのいわやどでんせつ）

速須佐之男命（すさのおのみこと）が乱暴をはたらき、天照大御神（あまてらすおおみかみ）は、天の岩屋にこもってしまいます。天照大御神（あまてらすおおみかみ）が天の岩屋に隠れたため光を失った高天原（たかのあまはら）や葦原中国（あしはらのなかつくに）に光を取り戻すため、他の神々が策を講じて天照大御神（あまてらすおおみかみ）を岩屋から引きずり出す際に用いられたのが、「八咫鏡（やたのかがみ）」と「八尺勾玉（やさかにのまがたま）」です。

勾玉はもともと、先史・古代の日本における装身具の一つで、当時の人々の権威を示す物であり、首飾りや腕輪などにして身に付けていました。今でいうアクセサリーですね。

〔八俣の大蛇伝説〕

天上を追放された速須佐之男命（すさのおのみこと）が出雲の国で、八頭八尾の大蛇を倒します。その大蛇の尾から出てきた剣が「草薙剣（くさなぎのつるぎ）」です。速須佐之男命（すさのおのみこと）はこの剣を天照大御神（あまてらすおおみかみ）に献上しました。

この剣は日本最古の日本刀と言われています。日本刀の模造品も展示していますのでぜひ比べてみてください。



※草薙剣のイメージイラスト

神戸学院大学図書館 展示会通信 MERIDIAN 第29号

2013年11月22日発行

発行・編集：神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL: 078(974)1551(代) E-mail: pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページ: URL: <http://opac.kobegakuin.ac.jp/>

